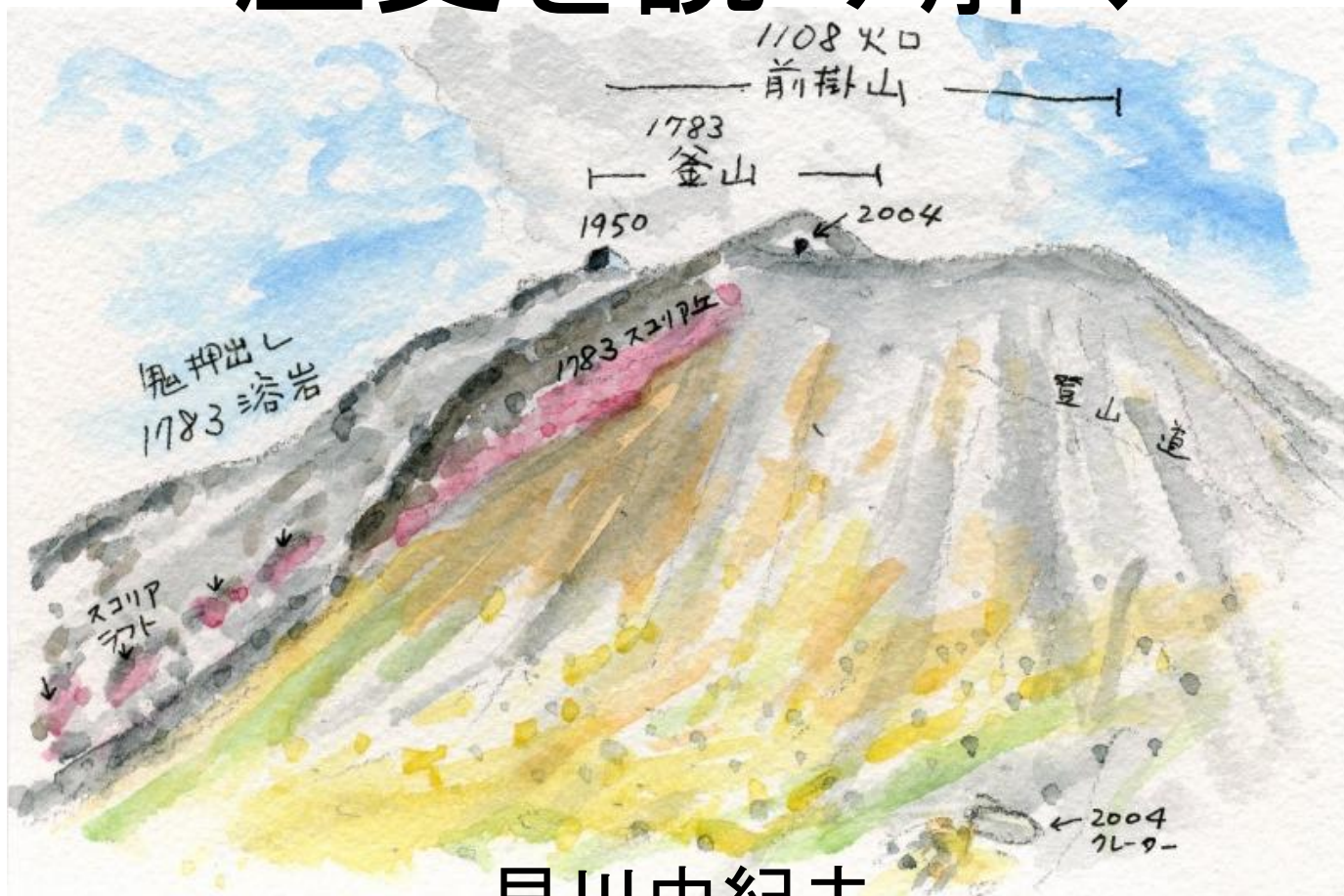


浅間山の風景に書き込まれた 歴史を読み解く

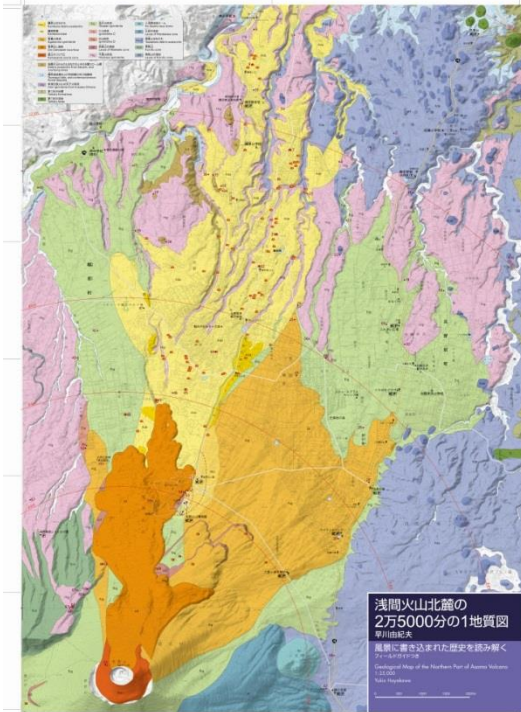


早川由紀夫

2015年10月10日 @長野原町山村開発センター

浅间山の地質図は、 おおむね4色で塗り分けられる

- 江戸時代(1783年)の噴火 赤色～黄色
- 平安時代(1108年)の噴火 黄緑色
- 1万5800年前の噴火 ピンク色
- 2万4300年前の崩壊 青色



観察事実

- 大きな噴火がつくった地層は、浅間山から遠いところに分布する。
- 大きな噴火は、古い。

解 釈

1. 浅間山から遠いところは、最近の噴火災害を受けていない。
- ~~2. 浅間山は、昔は大きな噴火をしたが、いまは小さな噴火しかしない。~~
3. 大きな噴火はめったに起こらない。小さな噴火は頻繁に起こる。

初夏の浅间山



2006年5月3日

晩秋の浅間山



2007年11月14日

上空200mから見た六里ヶ原



2015年7月22日

2015年9月23日



2004年9月17日





2004年9月3日



2006年10月28日



2008年8月15日



2015年9月23日



2004年9月1日 山火事
2008年8月15日 観察

4年前に山火事を経験した山肌に、クロマメノキ、ミネズオウ、ガンコウランが旺盛に繁殖している。2年前はクロマメノキばかりだったが、ミネズオウとガンコウランも復活した。群落の緑の隙間に、4年前の山火事で枯死した灰色の植物体がみえる。





2004年9月3日



2006年10月28日



2008年8月15日



2015年9月23日

A 1783年 M4.5



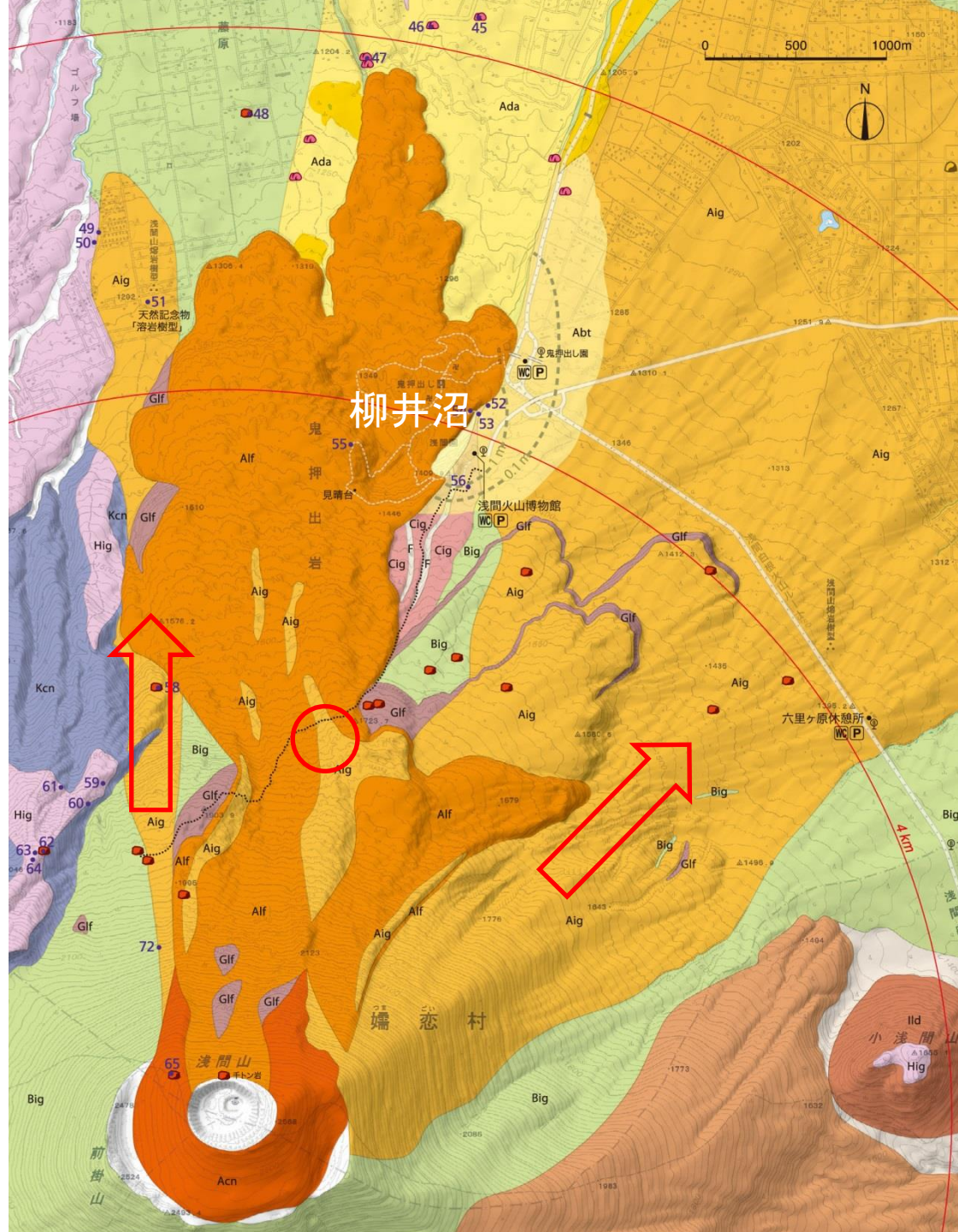
- 鬼押し出し溶岩は8月2日に流れ出した。8月4日の吾妻火砕流に覆われている。
- 鎌原事件は柳井沼から8月5日に発生した熱雲と土石なだれからなる。

空から見た鬼押し出し溶岩



地上から見た鬼押出し溶岩と吾妻火砕流





鬼押し出し溶岩を 覆う吾妻火砕流



鬼押し出し溶岩を覆う吾妻火砕流



文字史料をみると、

浅間山四月九日より焼不断鳴候テキナル穴明テ煙火吹出シ候。此穴長野原より八見ゆる河原(湯)よりは不見。浅間ノ北ノナダレニ谷地あり長□□も有ル谷地也。其北ニ松林アリ御林なり。大木ノ松アリ世間ニクロフト云。其北ハ鎌原ナリ。鎌原ハ一段高キ所ニテ昔シ鎌原左門ト云者ノ古城跡ニテ北ノ方ハ切岸ニテ屏風ノ如シ。豎町ト云西東ノ町あり。横町ト云北南ノ町豎町西ニ在、其西ハ山也。七月初瀧原ノ者草刈ニ出テ谷地ヲ見候ハ谷地之泥ニ間斗涌あかり候。是ヲ見テ畏レ早速家財ヲ被仕廻立退候。瀧原ト(ハ)鎌原之内ニテ谷地ニ近キ東ノ方なり。十四五軒も有ル所也。然ル所七月八日昼四ツ前夥敷焼上リ火石を吹飛シ谷地ニ落入谷地之泥涌上リ松林ヲ拔キ鎌原へ押懸ケ町中ニ百軒斗一軒モ不残押抜候。横町ノ者後ノ山へ六十人斗リ逃上リ候へ共豎町ノ者ハ僅ニ五人助リ候由。夫より泥三筋二分レ北西ノ方へ西窪ヲ押抜ケ是より逆水ニテ大前高ウシ両村ヲ押抜ケ中ノ筋ハ羽尾村へ押かけ、北東ノ方ハ小宿村を推抜ク。羽尾小宿の間にて芦生田抜ル。

毛呂義郷 『砂降候以後之記録』

神原の用水ハ浅間の腰より来ル。七日晚流一円来す。村の長たる者不思議成事かな源を見んと八日の未明見に趣しに泥湧出つる事山の如し。見と齊しく飛鳥の如く立歸リ村へ来ルと大音に、大変有家財も捨て逃よ逃よ(と)呼りて我家へ帰、取者もとりあへずあたり(近)辺を引連て高き山へ遁れて命恙なし。呼ばれたる家にて、何気違の有様逃てよくバ朝飯給て退くべしと油断する中、大浪天にみなぎり其はやき事一時に家も人も皆泥中のみくず二成。

蓉藤庵 『浅間山大変実記』

鬼押し出し溶岩 の向こう側



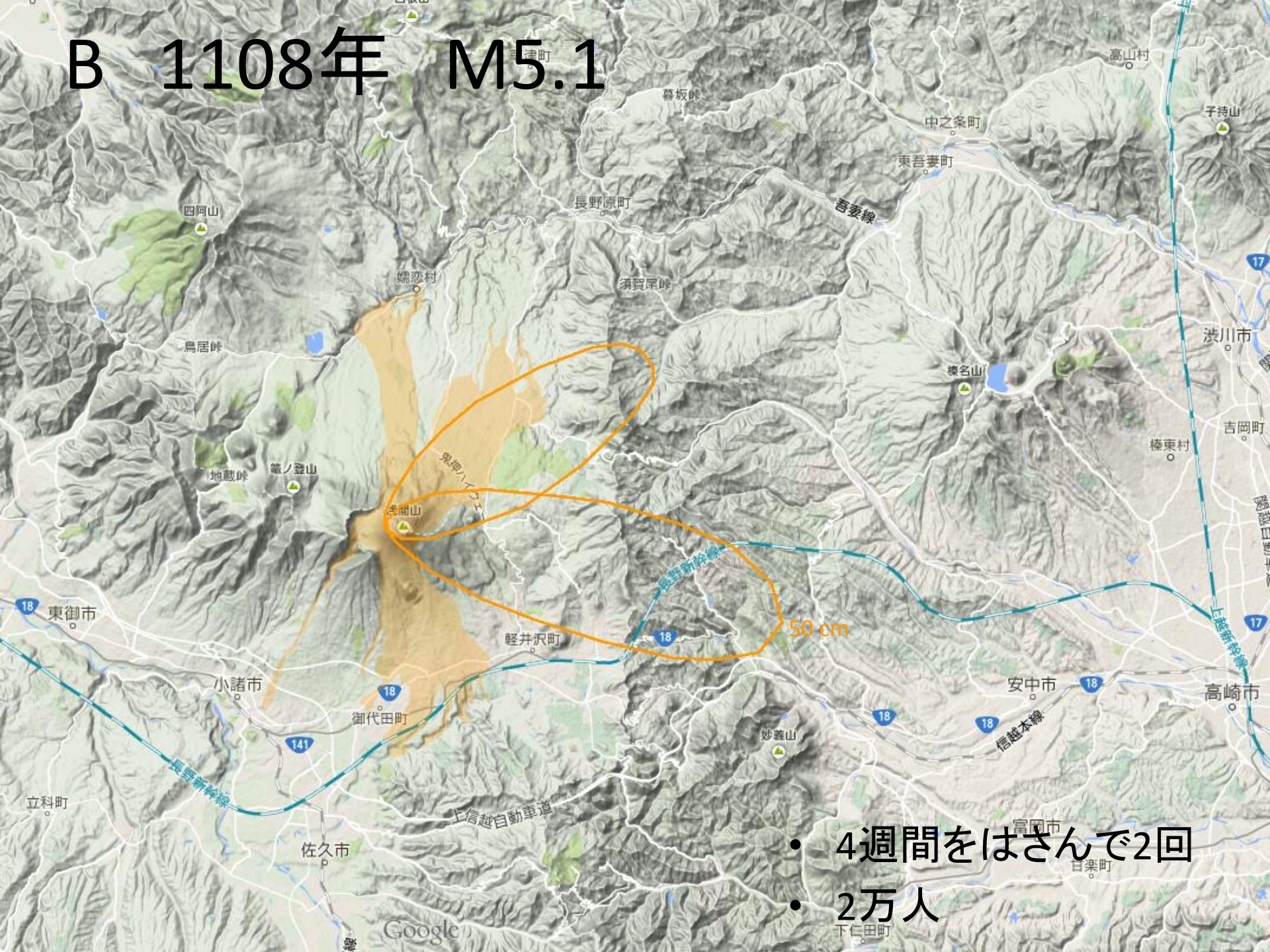
鎌原村は土石なだれに襲われた。



鎌原石は鬼押し出し溶岩だった。



B 1108年 M5.1



- 4週間をはさんで2回
- 2万人

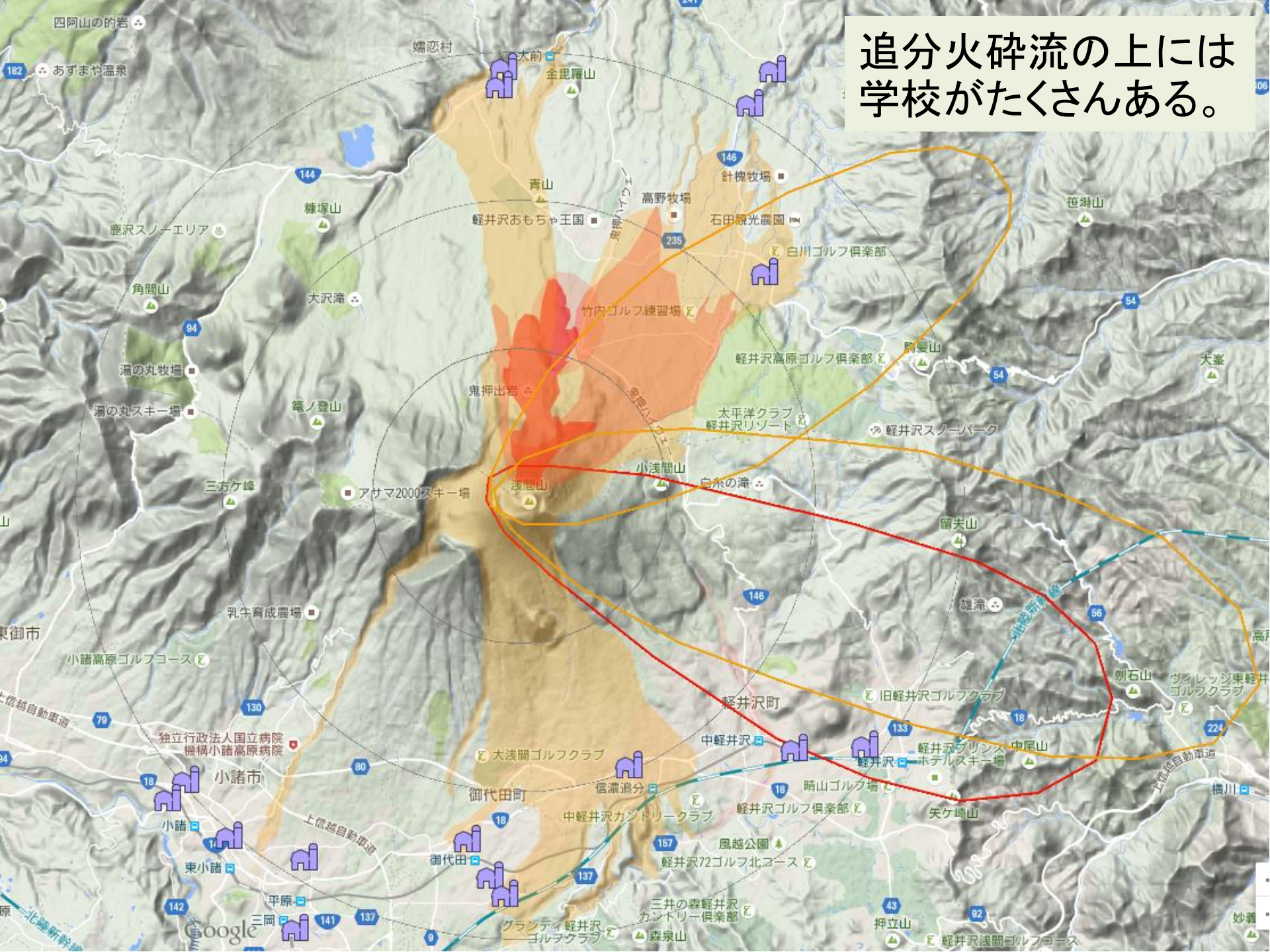
追分火砕流



追分キャベツ



追分火砕流の上には
学校がたくさんある。



藤原宗忠の『中右記』 天仁元年

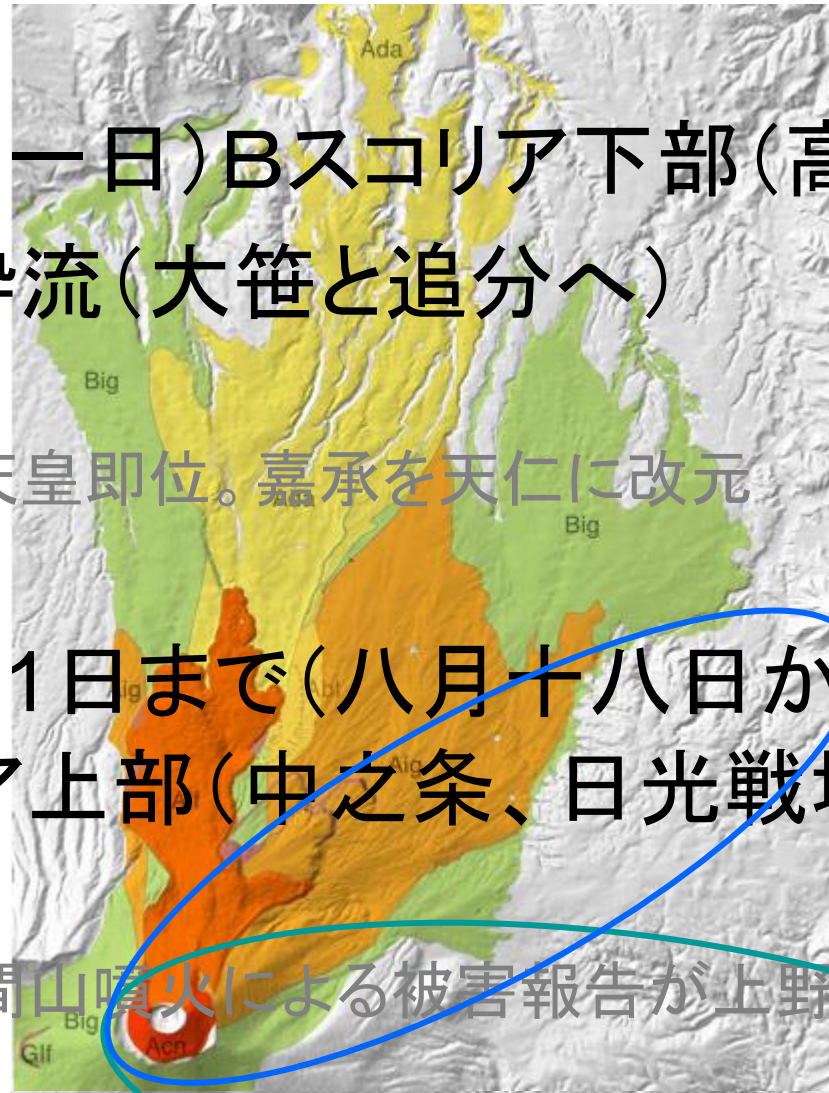
- 八月二十日(1108.9.28)「近曾天下頻鳴動、若依何崇所致哉」
- 八月二十五日(10.3)「寅卯時許、東方天色甚赤」
- 九月三日(10.11)「天晴、早旦東方天甚赤、此七八日許如此、誠為奇、可尋知歟」
- 九月五日(10.13)「近日上野國司進解狀云、国中有高山、稱麻間峯、而從治曆間(1065-1069)峯中細煙出來。其後微々成、從今年七月二十一日(8.29)猛火燒山峯、其煙屬天沙礫滿國、【火畏】燼積庭、國內田畠依之已以滅亡、一國之災未有如此事、依希有之怪所記置也。」
- 九月二十三日(10.31)「今日午時許有軒廊御卜、上卿源大納言、俊、上野國言上麻間山峯事」

藤原忠実の『殿暦』 嘉承三年八月

- 十八日(1108.9.26)、乙未、天晴、丑剋許東北方有大鳴、其聲如大鼓、卯時從院左衛門尉頼、来云、御使、此鳴如何、余申奇由了、午剋許聲又同
- 廿日(9.28)、丁酉、天晴、(中略)天下鳴事有御卜

浅間山の1108年噴火推移と宮中の出来事

- 8月29日(七月二十一日)Bスコリア下部(高崎へ)
- 8月30日 追分火砕流(大笹と追分へ)
- 9月9日(八月三日)鳥羽天皇即位。嘉承を天仁に改元
- 9月26日から10月11日まで(八月十八日から九月三日まで)Bスコリア上部(中之条、日光戦場ヶ原へ)
- 10月13日(九月五日)浅間山噴火による被害報告が上野国から京都に届く
- 10月31日(九月二十三日)軒廊御下



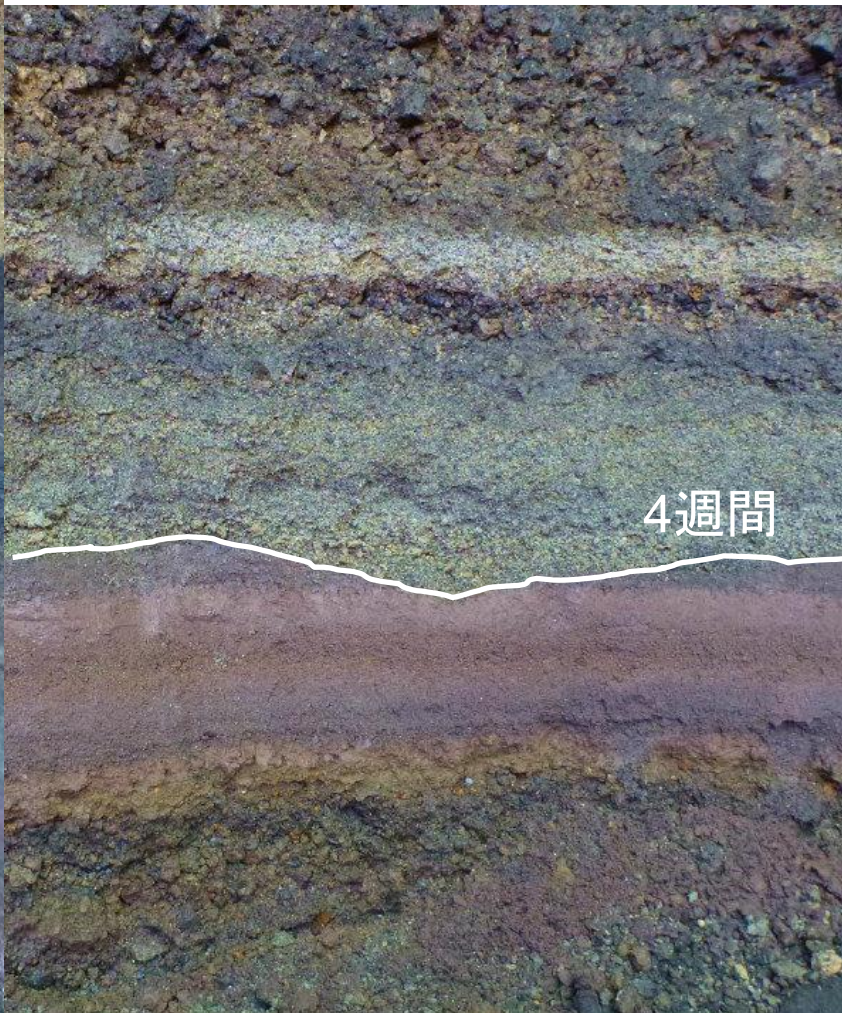
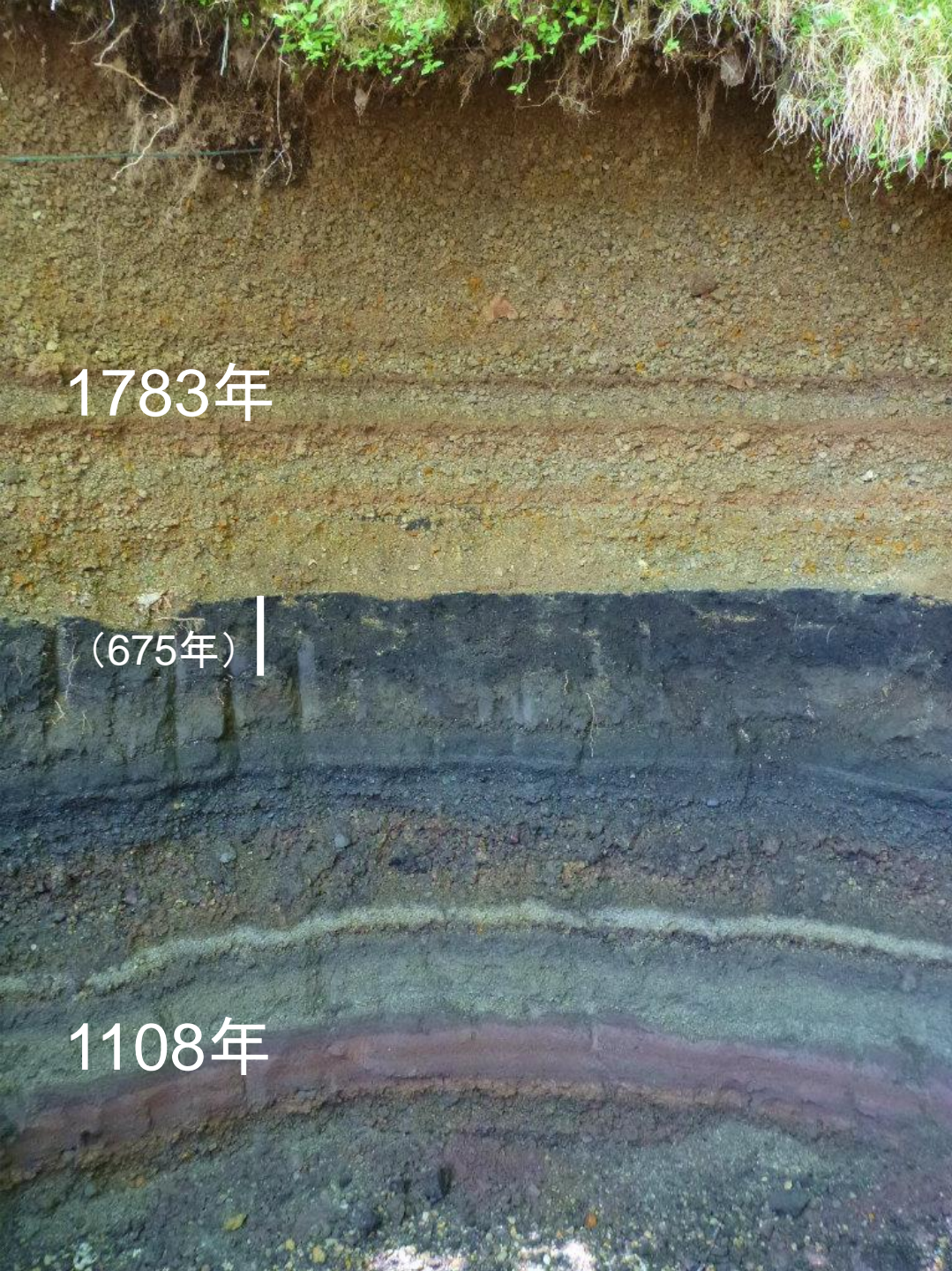
峰の茶屋

1783年

(675年)

1108年

4週間



平原 1万5800年前 M6.5



噴火は1回、数ヵ月から数年。孀恋軽石は夏。20万人



カラフル火山灰上部(顕著なガリーが3層準)

The image shows a geological cross-section of a hillside. The upper portion consists of several distinct, wavy layers of volcanic ash, characterized by alternating colors of yellow, tan, and reddish-brown. These layers are separated by thin, dark lines, which are highlighted by white outlines. Below these layers is a thick, dark brown, granular layer of pumice. At the base of the hillside, there is a layer of light-colored, sandy material. The top of the hillside is covered with sparse vegetation and tree roots.

孀恋軽石

カラフル火山灰下部

平原火砕流

山体崩壊

塚原 2万4300年前





応桑の流れ山



YP

群馬県庁

塚原土石なだれ

塚原土石なだれの上に、いま100万人が住んでいる。

孺恋湖成層



平原火砕流

高羽根沢

25万年前から17万年前まで、
浅間山の北に大きな湖が広がっていた。



古孺恋湖の水面は、
標高 920 m にあった。

浅间山の噴火規模と発生頻度

| | | | | |
|------|-----|---------|------------|-------------------|
| 20万人 | M6 | 100億トン | 1万4000年に1回 | 平原、(塚原) |
| 2万人 | M5 | 10億トン | 700年に1回 | 1783年、1108年、290年 |
| | M4 | 1億トン | | |
| | M3 | 1000万トン | 350年に1回 | 1596年 |
| | M2 | 100万トン | | |
| | M1 | 10万トン | 10年に1回 | 2004年、1982年、1973年 |
| | M0 | 1万トン | | 2009年2月2日は2万トン |
| | M-1 | 1000トン | | |
| | M-2 | 100トン | | 2015年6月16日は400トン |

地層として残る

